

### 1.4.3 テンドンの二重防食について

従来の「グラウンドアンカー設計・施工基準，同解説書」では，二重防食（永久アンカー）を明記していた．

しかし近年これが削除され，次表のように防食の機能が保証されればよいというスタンスに変わっている．

防食位置	条 件
アンカー体	(1)防食が必要なテンドンは，アンカー体部シースなどに収め，その内部をグラウトや防食用材料で充填するか，あるいはその他の方法で確実な防食を行う． (2)シースとテンドンの間に隙間が存在するとテンドンが腐食する恐れがあるので，隙間がないように施工するものとする．
引張り部	(3)アンカー自由長部シースとその他の防食材料との組み合わせにするか，あるいはその他の方法で確実な防食を行う． (4)防食材料はテンドンの伸びを拘束しないものとする． (5)自由長部のグラウトは孔壁周囲の地盤の緩みを抑えるとともに，自由長部の防食機能を増加させることも期待できる． (6)防食材料は一定の被り厚を持つように完全に充填すること

これらを踏まえた留意点を整理すれば以下のようなになる．

テンドンは，実質，現場で引きずることが多いため，これの損傷を防ぐよう，挿入前の状態で全体を二重防食加工とすることが望ましい．

上記（２）より，テンドンをシース材で被覆する場合は，防錆油等で隙間を充填することが基本となる．

上記（５），（６）より，自由長部のグラウト材は，現実的に防食材料として期待すべきではない．